

語る聞く

NPO法人「シンクキッズ」代表理事

後藤 啓二さん 59



尾崎孝撮影

こう・けいじ 1959年、神戸市生まれ。東京大卒業後、82年に警察庁に入庁し、大阪府警生活安全部長や内閣参事官(安全保障・危機管理担当)などを歴任した。2008年に神戸市に後藤コンプライアンス法律事務所を設立、12年にNPO法人シンクキッズを設立した。著書に「子ども虐待死ゼロを目指す法改正の実現に向けて」など。

幼い命 大人が守る

子どもへの虐待事件が後を絶たない。「もうおねがい、ゆるして、ゆるしてください」。今年3月、東京都目黒区で亡くなった5歳女児が書き残した言葉は、改めて児童虐待の残酷さを社会に突きつけた。警察官僚から弁護士に転身し、児童虐待問題に取り組むNPO法人「シンクキッズ」(東京)代表理事の後藤啓二さんは「子どもの命を守るには、大人社会全体の責務」と訴える。(社会部 関俊一)

全国の児童相談所(児相)が対応した児童虐待は2017年度、過去最多の13万3778件。児相が事前に関与しながら、虐待で子どもが死亡した事件は、16年度末までの10年間に171件もあったという。

「多くは救えるはずの命だったと思います。東京都目黒区の虐待死事件も事前に児相の職員が家庭訪問しながら、亡くなった船戸結愛ちゃん(当時5歳)の姿を確認しませんでした。児相は母親に面会拒否された」と説明していますが、抱え込まず、警察に電話一本し、救うことができたのではと悔やまれます。

関係機関の連携不足は何度も指摘されてきた。児童虐待の報道に接するたび、はがゆい思いを抱いてきた。

との連携が重要で、児相と警察の情報共有は欧米では以前から行われており、その必要性を国や自治体に訴えてきましたが、改善されず、今も多くの子どもの命が脅かされているのです。

子どもの安全は警察時代から取り組んできたテーマだ。大阪府警の生活安全部長を務めた01年、児童8人が亡くなる大阪教育大付属池田小学校の児童殺傷事件が起きた。

「事件は、子どもを狙う悪意の存在を浮き彫りにしました。子どもの安全を守るため、『大阪府安全なまちづくり条例』(02年施行)の立案に関わりました。警察や行政だけでなく地域ぐるみで防犯対策に取り組む内容で、その後、全国に同様の条例が広がりました。府警時代は非行少年の立ち直り支援にも力を入れた。

「ある時、非行を繰り返す少年について少年課の刑事に調べてもらいました。すると、何らかの虐待を受

警察と児相の連携 虐待解決への第一歩

東京都目黒区の虐待死事件 今年3月2日、目黒区のアパートで虐待を受けた船戸結愛ちゃん(当時5歳)が死亡し、両親が保護責任者遺棄致死罪などで起訴された。結愛ちゃんは十分な食事を与えられず、死因は低栄養状態で引き起こされた肺炎による敗血症だった。結愛ちゃんは以前に住んでいた香川県で児童相談所に一時保護されていたが、転居後に東京都の児相に十分な情報が伝わらず、東京都の児相も結愛ちゃんの姿を一度も確認していなかった。

「結愛ちゃんら命を落とした子どもたちが知事たちを動かしたんです。でも、多くの自治体や国の動きは不十分です。7月に公表された児童虐待防止の緊急対策では、児相と警察の情報共有について『虐待による外傷などがある事案』に範囲が絞られました。服の下に隠された外傷を児相が見抜くことは困難です。親に虚偽の説明をされれば、虐待を見落とす可能性があります」

「45歳でした。組織でできることもあったと思いますが、自由な立場で幅広く活動したい、と。あすの会では、被害者遺族の怒りが、裁判への被害者参加かし、児童虐待で声を上げる被害者はいません。親が加害者だからです。子どもは『忘れられた犯罪被害者』で、その声を誰かが代弁しなければいけませんでした」

取材後記 後藤さんは過去の虐待事件で亡くなった子どもの名前を何度も口にしました。「悲惨な事件も時間がたつと忘れられる。私くらは子どもたちのことを覚えていてあげたい」からだという。

事件取材では、事実を伝えるため、必ず被害者について話を聞く。だが、虐待

警察の虐待情報の全件共有を求め、3万5000人分の署名を提出した。都道府県にも要望を重ねてきたが、面会を拒否されることもあったという。

「まず、警察時代の同僚に協力を求めました。警察は賛同してくれましたが、児相は否定的でした。『警察に情報を伝えると保護者との信頼関係が損なわれる』など理由ですが、行政の縦割り意識が原因かもしれません。目の前で子どもが命を落としているのに、納得できませんでした。ただ、活動は徐々に実を結び始めている。警察との虐待情報の全件共有は、大阪府が8月から始めるなど各地に広がっている。

「結愛ちゃんら命を落とした子どもたちが知事たちを動かしたんです。でも、多くの自治体や国の動きは不十分です。7月に公表された児童虐待防止の緊急対策では、児相と警察の情報共有について『虐待による外傷などがある事案』に範囲が絞られました。服の下に隠された外傷を児相が見抜くことは困難です。親に虚偽の説明をされれば、虐待を見落とす可能性があります」

「イギリス政府の児童虐待防止のガイドラインはWorking Togetherという題名です。各機関が信頼関係を構築し、それぞれの能力を最大限発揮しようという理念です。警察も従来の考えを変え、家庭内暴力に関するものなど様々な情報を提供する必要があるでしょう。児童虐待は一つの機関で解決できるほど甘くはない。情報の全件共有はその一歩に過ぎません」

では、どのような子どもだったかわからないことが多い。一番身近な親が逮捕され、社会から孤立していることが少なくないからだ。だからこそ、「肉声」を伝えた結愛ちゃんの事件で、多くの大人が心動かされたのだと思う。虐待された子どもたちそれぞれに人生に思いを寄せ、憤りを抱く大人がどれだけ増えるか。後藤さんの言葉に、虐待を減らす大事な鍵を見つけた気がした。